口腔領域に発生した脂肪腫の2例

村上圭司・岡部孝一・加藤隆三・熊谷茂宏
中川清昌・山本悦秀・坂下英明*・仲井雄一**

Two cases of lipoma in the oral cavity

Keiji MURAKAMI・Kohichi OKABE・Ryuzo KATO
Shigehiro KUMAGAI・Kiyomasa NAKAGAWA・Etsuhide YAMAMOTO
Hideaki SAKASHITA*・Yuichi NAKAI**

Abstract: Lipoma, a benign lesion composed largely of fat tissue, is one of the most common of all neoplasms and is rarely seen in the oral cavity. We experienced two cases of lipoma in the oral cavity.

Case 1: The patient, a fifty-four year old woman, noticed swelling on her left buccal mucosa. The tumor arose from the submucosal region of the mucobuccal junction which corresponded to the left mandibular molars. The tumor was excised under local anesthesia. From histological examination, the diagnosis of lipoma was based on the fact that the circumscribed mass of mature fat cells was observed below thin fibrous connective tissues.

Case 2: The patient, a seventy-five year old woman showed a swelling on her right maxilla tuberosity. The tumor was excised under local anesthesia. From histological examination, the diagnosis of fibrolipoma was made based on the fact the circumscribed mass of mature fat cells was observed below rich fibrous connective tissues.

Postoperative courses of those patients were not eventful.

Key words: lipoma (脂肪腫), fibrolipoma (線維脂肪腫), oral lesion (口腔病変)

緒 言 症 例

脂肪腫は、成熟脂肪細胞の増殖からなる良性腫瘍で脂肪組織の存在するいかなる部位でも発生する¹⁾が、口腔領域では比較的まれとされている。今回われわれは、口腔内に発生した脂肪腫の2例を経験したので、その概要を報告する。

症例1

患者: 54歳 女性。
初診: 昭和58年3月■日。
主訴: 16部歯肉腫脹。
家族歴・既往歴: 特記事項なし。
現病歴: 約2か月前より16部頬側歯肉の腫脹に気づ

金沢大学医学部歯科口腔外科学講座
(主任: 山本悦秀教授)

* 石川県立中央病院歯科口腔外科
(主任: 坂下英明医長)

** 荒木病院歯科
(主任: 仲井雄一医長)
Department of Oral Surgery, School of Medicine, Kanazawa University (Chief: Prof. Etsu-

hide Yamamoto)

* Department of Dentistry and Oral Surgery, Ishikawa Prefectural Central Hospital (Chief: Hideaki Sakashita)

** Department of Dentistry, Araki Hospital (Chief: Yuichi Nakai)

受付日: 平成2年1月25日

写真1 症例1: 初診時の口腔内写真

写真2 症例1: 摘出物写真

くも疼痛ないため、そのまま放置していた。その後、某歯科を受診した際に同部の腫脹を指摘され、当科紹介され来科した。

現 症

全身所見：体格中等度，栄養状態良好。

顔貌所見：顔貌は左右対称性であり，所属リンパ節に異常は認められなかった。

口腔内所見：「6」部歯肉頬移行部より，頬粘膜にかけて境界明瞭，淡黄色，弾性軟，無痛性大豆大の腫瘤を認めた（写真1）。

臨床検査所見：血液・尿検査所見共に，異常は認められなかった。

臨床診断：脂肪腫。

処置および経過：昭和58年3月■日局所麻酔下にて腫瘍摘出術を施行した。腫瘤は薄い被膜に被覆され，周囲組織との癒着はなく，一塊として摘出された。術後4年2か月を経過した現在，再発の徴候もなく経過良好である。

摘出物所見：腫瘤は $11 \times 9 \times 8$ mm の類球形を呈し，表面は平滑で透明な薄い皮膜で覆われ，帯黄色，弾性軟であった。剖面は淡黄色，充実性であった（写真2）。

病理組織学的検査：腫瘍は線維性結合組織よりなる被膜に被覆され，また一部は結合組織索で分葉状に区分され，その内部には成熟した脂肪細胞の増殖を認めた。細胞には異型性などの悪性所見は認められなかった（写真3）。

病理組織学的診断：脂肪腫。

症例2

患 者：75歳 女性。

初 診：昭和62年10月■日。

主 訴：顎関節部の疼痛。

家族歴：特記事項なし。

既往歴：40歳時より高血圧症にて加療中。

写真3 症例1: 病理組織像 (H-E, 弱拡大)

現病歴：顎関節症にて当科通院加療中，右側口蓋結節部の腫瘍を指摘された。

現 症

全身所見：体格中等度，栄養状態良好。

顔貌所見：顔貌は左右対称性で所属リンパ節に異常は認められなかった。

口腔内所見：右側上顎結節部に，境界明瞭，被覆粘膜色正常，弾性軟，無痛性，大豆大の有茎性腫瘤を認めた（写真4）。

臨床検査所見：血液・尿検査所見共に，異常所見は認めなかった。

臨床診断：上顎結節部腫瘍。

処置および経過：昭和62年11月■日，局所麻酔下にて，腫瘍は口蓋粘膜に基部を持ち有茎部分より切除した。術後，1年5か月を経過した現在，再発の徴候もなく経過良好である。

摘出物所見：腫瘤の大きさは $8 \times 9 \times 5$ mm の不整半球形を呈し，表面は比較的厚い被膜に覆われ，弾性軟であった。剖面は淡黄色の脂肪様物と結合組織が混在し

写真 4 症例 2：初診時の口腔内写真（矢印は腫瘍部分である）

写真 5 症例 2：病理組織像（H-E、弱拡大）

写真 6 症例 2：病理組織像（Oil-Red、弱拡大）

ており、それらを被覆する上皮が認められた。

病理組織学的検査：H.E. 染色では、周囲は軽度肥厚した重層扁平上皮により被覆されていた。基質の多くは、成熟脂肪細胞で、脂肪細胞間には、線維性結合組織索が豊富に存在し、脂肪組織は分葉状を呈していた。また同細胞には異型性など悪性所見は認められなかった（写真 5）。

一方、オイル・レッド染色では、結合組織は分葉状を呈し、多数の赤色に染色した脂肪滴を認めた（写真 6）。

病理組織学的診断：線維脂肪腫。

考 察

脂肪腫は、成熟脂肪細胞の増殖からなる非上皮性の良性腫瘍で脂肪組織の存在するいかなる部位でも発生するといわれている¹⁾。

MacGregor ら²⁾によると、全身における脂肪腫の発現頻度は、良性腫瘍の 4～5% であると報告され、本邦において、遠城寺ら³⁾が良性軟組織腫瘍 8,086 例のうち 19.8% であったと報告している。

一方、口腔領域に発生する脂肪腫の頻度は、Bertelli⁴⁾が 633 例中 0.95%，Wehrle ら⁵⁾が 180 例中 2.2%，Rapidis ら⁶⁾が約 2% を占めると報告している。本邦においても、口腔内良性腫瘍における本腫瘍の頻度はおおむね 2% 前後であり、比較的まれとされている。

さらに本腫瘍の口腔内での発生部位については、MacGregor ら²⁾は、57 例中頬部が最も多く 24 例（42.1%）、次いで舌 11 例（19.3%）、口底 8 例（14.0%）、下唇 6 例（10.5%）の順であったと報告している。また、Hatziotis ら⁷⁾によると、143 例中、頬部が最も多く 46 例（32.1%）、次いで舌が 28 例（19.6%）、口底 21 例（14.7%）、頬粘膜および口腔前庭部 18 例（12.6%）、口蓋 13 例（9.1%）の順であった。本邦では刀根ら⁸⁾は口腔領域に発生した本腫瘍の報告例 157 例を集計調査したところ、頬粘膜が 58 例（37.0%）と最も多く、次いで舌 27 例（17.2%）、さらに口底 16 例（10.2%）の順であったと報告している。また、鈴木ら⁹⁾は 33 例を集計し、頬部 11 例（33.3%）で最も多く、次いで舌 5 例（15.2%）であったと報告している。本症例の 2 症例も典型的でないが、頬部に近接していた。

一方、発生年齢別頻度をみると、40 歳以上では、MacGregor²⁾の報告では 77.2% で、Hatziotis ら⁷⁾では 80.6% と多発している。また、Rapidis⁶⁾の報告でも 50 歳代で最も多く、平均年齢は 55.5 歳であったと記載している。本邦でも、刀根ら⁸⁾の報告によると、40 歳以上で 67.5% であるといわれている。諸家の報告をみると 40 歳以上が多いようである。

本腫瘍の病理組織像は、成熟した脂肪細胞の増殖よりなり、結合組織索により分葉状を呈することが多く、薄

表 1 本邦における口腔領域に発生した線維脂肪腫の報告 (1960~1989年)

症例	報告者	年代	年齢	性別	発生部位	大 き さ
1.	田 中 ¹⁵⁾	1961	60	女	頬粘膜	1.5×1.0×1.2 cm
2.	大 井 ¹⁹⁾	1992	17	女	口底	鷲卵大
3.	岡 本 ²⁰⁾	1963	65	女	口底	拇指頭大
4.	間仁田 ²¹⁾	1964	64	女	歯肉頬移行部	2.3×1.0×1.5 cm
5.	間仁田	1964	3	女	頬粘膜	雀卵大
6.	間仁田	1964	15	男	頬粘膜	鵝卵大
7.	朱 雀 ²²⁾	1967	65	男	頬粘膜	3.0×2.0×1.5 cm
8.	朱 雀	1967	56	女	頬粘膜	2.0×2.0×2.0 cm
9.	滝 川 ²³⁾	1969	56	男	歯肉頬移行部	胡桃大
10.	滝 川	1969	60	女	口底	胡桃大
11.	本 間 ²⁴⁾	1969	65	女	頬粘膜	
12.	柴 田 ²⁵⁾	1970	54	女	口底	4.0×2.5×1.5 cm
13.	佐 藤 ²⁶⁾	1978	69	女	口蓋	1.9×1.7×1.5 cm
14.	川 原 ²⁷⁾	1979	1	女	頬粘膜	2.0×1.2×0.7 cm
15.	梶 山 ¹⁴⁾	1981	5M	女	舌	小豆大×2, 大豆大×1
16.	沢 木 ²⁸⁾	1982	77	女	口底	2.3×1.8×1.5 cm
17.	老 沼 ²⁹⁾	1982	52	男	上顎歯肉	2.5×1.5×1.5 cm
18.	金 田 ³⁰⁾	1982	11	女	舌	2.0×1.5×1.5 cm
19.	石 橋 ³¹⁾	1984	76	男	歯肉頬移行部	2.4×1.7×1.2 cm
20.	首 藤 ³²⁾	1986	46	女	臼後三角	1.5×1.1×1.1 cm
21.	自験例	1989	75	女	口蓋	0.9×0.8×0.5 cm

い線維性被膜によって被覆されることにより、正常脂肪組織とは区別されている¹⁰⁾。本腫瘍は基質ならびに腫瘍細胞の性状により、単純性脂肪腫、線維組織の増殖を伴う線維脂肪腫、多数の毛細血管が認められる血管脂肪腫、腫瘍組織内に化骨の認められる化骨性脂肪腫、粘液腫様変化を呈する粘液脂肪腫などに分類されている¹⁰⁾。自験例では症例1では単純性脂肪腫、症例2では成熟脂肪細胞と豊富な線維性結合組織素とが混在し、線維性脂肪腫であった。本邦の最近28年間と、自験例を含めた21例の線維性脂肪腫について臨床的分析を行ったところ(表1)、発生部位では頬粘膜が7例と最も多く、次いで口底5例、さらに歯肉頬移行部3例、舌・口蓋それぞれ2例の順で、その他臼後三角、上顎歯肉に認められた。性別では女性が21例中16例(76.2%)で圧倒的に多くみられた。年齢別発生頻度では60歳代が最も多く7例、次いで50歳代が4例、さらに70歳代、10歳代、10歳未満がそれぞれ3例ずつみられた。

脂肪腫の発生機序については、一般的には、組織異所発生説¹¹⁾、正常組織の過形成説¹²⁾などが考えられている。また、その成因としては、外傷¹³⁾・慢性的刺激¹⁴⁾・内分泌異常¹⁵⁾・放射線¹⁶⁾・脂肪代謝障害¹⁷⁾などあげられているが、いまだ明らかにされていないようである。今回の2症例について、原因あるいは誘因と考えられる事項

を明らかにすることはできなかった。

治療法は、一般に外科的摘出が行われ、全摘出を行えば、予後は良好といわれているが、きわめてまれに再発あるいは悪性化をきたすこともあるとされている。今回の2症例は、術後それぞれ4年2か月、1年5か月を経過したが再発の徴候は認められていない。

結 語

今回、われわれは口腔内に発生した脂肪腫の2例を経験したのでその概要を報告した。

本論文の要旨は、平成元年6月、第14回日本口腔外科学会中部地方会(於:愛知県長久手町)において発表した。

引 用 文 献

1) 赤崎兼義: 病理学総論。第11版, 南山堂, 東京, 1973, 326-327頁。
2) MacGregor, A.J. and Dyson, D.P.: Oral lipoma. A review of the literature and report of twelve new cases. Oral Surg 21: 770-777 1966.

- 3) 遠城寺宗知, 岩崎 宏, 他: わが国における良性軟部組織腫瘍—8086例の統計的観察—, 癌の臨床 20: 594-609 1974.
- 4) Bertelli, A.P.: Uncommon tumors of the tongue (lipoma and leiomyofibroma). Report of two cases. Oral Surg 19: 771-775 1965.
- 5) Wehrle, D.P., Emmings, F.G., et al.: Lipoma of the oral cavity. Report of the four cases. Oral Surg 20: 138-140 1965.
- 6) Rapisdis, A.D.: Lipoma of the oral cavity. Int J oral Surg 11: 30-35 1982.
- 7) Hatziotis, J. Ch.: Lipoma of the oral cavity. Oral Surg 31: 511-524 1971.
- 8) 刀根 功, 松田耕策, 他: 下唇に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 31: 2816-2820 1985.
- 9) 鈴木三郎, 塩入重彰, 他: 頸部に発生した脂肪腫の1例と臨床統計的観察. 日口外誌 33: 1252-1257 1987.
- 10) 石川梧朗: 口腔病理学Ⅱ. 永末書店, 京都, 1982, 570-572頁.
- 11) Bruce, K.W. and Royer, R.Q.: Lipoma of oral cavity. Report of three cases. Oral Surg 7: 930-938 1954.
- 12) Stout, A.P.: Liposarcoma-the malignant tumor of lipoblasts. Ann Surg 19: 86-107 1944.
- 13) Allard, R.H.B., Blok, P., et al.: Oral Lipomas with osseous and chondrous metaplasia; report of two cases. J Oral Pathol 11: 18-25 1982.
- 14) 梶山 稔, 銅城将紘, 他: 乳児の舌に多発した線維性脂肪腫の1例. 口科誌 30: 313-317 1981.
- 15) Osmont, L.S.: Cutaneous lipoma and lipomatosis. Surg Gynecol Obstet 127: 129-132 1968.
- 16) Enzinger, F.M. and Sharon, W.W.: Soft tissue tumors. Mosby Co, St Louis, 1983, p 199-241.
- 17) Greer, R.O. and Richardson, J.F.: The nature of lipomas and their significance in the oral cavity. A review and report of cases. Oral Surg 36: 551-557 1973.
- 18) 田中 順: 頬粘膜に生じた線維脂肪腫の1例. 口病誌 28: 251-257 1961.
- 19) 大井一正, 千葉英輔: 口腔底に発現した巨大な Lipoma の1例(抄). 口外誌 8: 220 1962.
- 20) 岡本 治, 今井 悟, 他: 臨床診断において皮様嚢胞と誤診した脂肪腫の1例. 歯科学報 63: 749-750 1963.
- 21) 間仁田恭一, 帖佐勝造: 口腔の線維脂肪腫について. 口外誌 10: 231-233 1964.
- 22) 朱雀直道, 亀山忠光, 他: 頬粘膜下に発生した脂肪腫の2症例. 口科誌 16: 499-504 1967.
- 23) 滝川富雄, 比嘉定雄, 他: 口腔外科領域に生ずる脂肪腫について. 日大歯学 43: 472-482 1969.
- 24) 本間隆義, 二瓶守男, 他: 頬粘膜部に発生した線維脂肪腫の1例(抄). 口科誌 18: 849 1969.
- 25) 柴田重雄, 出口敏雄, 他: 口底部 Fibrolipoma の1例. 口科誌 19: 737-740 1970.
- 26) 佐藤正一郎, 松崎忠正, 他: 口蓋に発生した fibrolipoma の1例(抄). 日口外誌 24: 1339-1340 1978.
- 27) 川原秀蹴, 竹中將純, 他: 幼児の胸部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 25: 886-889 1979.
- 28) 沢木孝明, 川口辰彦, 他: 口腔底に発生した線維脂肪腫1例(抄). 日口外誌 28: 1375 1982.
- 29) 老沼真一, 松本憲事, 他: 歯肉に発生した脂肪腫の1例(抄). 日口外誌 28: 2145 1982.
- 30) 金田式世, 岩見弘司, 他: 脂肪腫の2例と文献的考察. 日口外誌 29: 1584-1590 1983.
- 31) 石橋利文, 染谷さき子, 他: 下顎歯肉頰移行部に発生した線維脂肪腫の1例. 日口外誌 30: 420-423 1984.
- 32) 首藤俊介, 富谷榮祐, 他: 臼後三角部に発現した線維性脂肪腫の1例. 福歯大誌 12: 228-232 1986.
- 33) 藤崎 誠, 杉原一正, 他: 口腔内に発生した脂肪腫の4例. 日口外誌 34: 961-968 1988.